

ドイツ語・ドイツ文学専攻分野科目

授業科目	講義題目	単位	担当教員氏名	曜日・講時	平成30年度以前入学者 読替先授業科目
西洋文化学特論Ⅰ	ヨーロッパ文化研究入門(1)	2	森本 浩一	前期 木曜日 2 講時	ドイツ文化学特論Ⅰ
西洋文化学特論Ⅱ	ヨーロッパ文化研究入門(2)	2	森本 浩一	後期 木曜日 2 講時	ドイツ文化学特論Ⅱ
ドイツ文学特論Ⅰ	中世ドイツ文学	2	嶋崎 啓	前期 金曜日 2 講時	ドイツ文学特論Ⅰ
ドイツ文学特論Ⅱ	十八世紀ドイツ戯曲の誕生——レッシング 作『フィロータス』	2	佐藤 研一	後期 木曜日 4 講時	ドイツ文学特論Ⅱ
ドイツ文化学特論Ⅰ	ドイツ（語）文化圏としての中欧の文化 と歴史 (3)	2	佐藤 雪野	前期 火曜日 2 講時	ドイツ文化学特論Ⅰ
ドイツ文化学特論Ⅱ	ゲオルク・ビューヒナーと近現代	2	竹内 拓史	通年集中 その他 連講	ドイツ文化学特論Ⅱ
ドイツ文学研究演習Ⅰ	近現代ドイツ短編小説講読	2	嶋崎 啓	前期 金曜日 4 講時	ドイツ文学研究演習Ⅰ
ドイツ文学研究演習Ⅱ	近現代ドイツ短編小説講読	2	嶋崎 啓	後期 金曜日 4 講時	ドイツ文学研究演習Ⅱ
ドイツ語学研究演習Ⅰ	ドイツ語学研究演習	2	ナロック ハイコ	前期 火曜日 3 講時	ドイツ文化学研究演習Ⅰ
ドイツ語学研究演習Ⅱ	ドイツ語学研究演習	2	ナロック ハイコ	後期 火曜日 5 講時	ドイツ文化学研究演習Ⅱ

科目名：西洋文化学特論 I / European Culture (Advanced Lecture) I

曜日・講時：前期 木曜日 2 講時

セメスター：1 学期 単位数：2

担当教員：森本 浩一

コード：LM14207 科目ナンバリング：LGH-LIT628J 使用言語：日本語

【平成 30 年度以前入学者読替先科目名：ドイツ文化学特論 I】

1. 授業題目：ヨーロッパ文化研究入門(1)
2. Course Title (授業題目)：Introduction to the study of European culture I
3. 授業の目的と概要：今学期は、ドイツ語による文学作品、あるいは批評ないし思想的なテキストを原文（ドイツ語）で講読する具体的な作業を通して、ヨーロッパの言語・文学・思想・歴史等について様々な角度から考えてゆきたい。参加学生の分野は問わないが、中級程度のドイツ語読解力を有することが望ましい。
4. Course Objectives and Course Synopsis(授業の目的と概要)：In this semester, by reading some literary or critical/philosophical texts written in German, we study various issues about European language, literature, philosophy and history. Students need, at least, the reading ability of intermediate German.
5. 学習の到達目標：ヨーロッパの言語・文学・思想・歴史等について研究するための基礎的な知識・観点を身につけ、あわせてドイツ語読解力を向上させる。
6. Learning Goals(学修の到達目標)：Students will not only acquire basic knowledge and perspective in order to study European culture, but also improve their linguistic skill of German.
7. 授業の内容・方法と進度予定：
【重要】 新型コロナウイルス感染症対策のために授業形態の修正・変更等がありうるので、教務係からの連絡に常に注意しておくこと。
 1. 導入
 2. 原書講読と考察(1)
 3. 原書講読と考察(2)
 4. 原書講読と考察(3)
 5. 原書講読と考察(4)
 6. 原書講読と考察(5)
 7. 原書講読と考察(6)
 8. 原書講読と考察(7)
 9. 原書講読と考察(8)
 10. 原書講読と考察(9)
 11. 原書講読と考察(10)
 12. 原書講読と考察(11)
 13. 原書講読と考察(12)
 14. 原書講読と考察(13)
 15. まとめ
8. 成績評価方法：
各回の講読の準備と議論への参加（100%）
9. 教科書および参考書：
必要に応じて授業中に指示する。
10. 授業時間外学習：原書講読中心の授業であるので、事前に読解の予習を行い、内容上の論点について考察・調査しておくことが求められる。
 1. 1. 実務・実践的授業/Practicalbusiness
※○は、実務・実践的授業であることを示す。/Note: "○"Indicates the practicalbusiness
《実務・実践的授業/Practicalbusiness》
 1. 2. その他：なし
個人面談は随時受け付ける。ただし、あらかじめ以下のアドレス宛てにメールしてアポを取る。新型コロナウイルス感染症への対応状況によって、面談は遠隔となる場合がある。なお、受講希望者は、必ず事前にメールで相談すること。
xkc-m2rt@tohoku.ac.jp (森本浩一)

科目名：西洋文化学特論Ⅱ／ European Culture (Advanced Lecture) II

曜日・講時：後期 木曜日 2講時

セメスター：2学期 単位数：2

担当教員：森本 浩一

コード：LM24208 科目ナンバリング：LGH-LIT629J 使用言語：日本語

【平成30年度以前入学者読替先科目名：ドイツ文化学特論Ⅱ】

1. 授業題目：ヨーロッパ文化研究入門(2)
2. Course Title (授業題目)：Introduction to the study of European culture II
3. 授業の目的と概要：今学期は、ドイツ語による文学作品、あるいは批評ないし思想的なテキストを原文（ドイツ語）で講読する具体的な作業を通して、ヨーロッパの言語・文学・思想・歴史等について様々な角度から考えてゆきたい。参加学生の分野は問わないが、中級程度のドイツ語読解力を有することが望ましい。
4. Course Objectives and Course Synopsis(授業の目的と概要)：In this semester, by reading some literary or critical/philosophical texts written in German, we study various issues about European language, literature, philosophy and history. Students need, at least, the reading ability of intermediate German.
5. 学習の到達目標：ヨーロッパの言語・文学・思想・歴史等について研究するための基礎的な知識・観点を身につけ、あわせてドイツ語読解力を向上させる。
6. Learning Goals(学修の到達目標)：Students will not only acquire basic knowledge and perspective in order to study European culture, but also improve their linguistic skill of German.
7. 授業の内容・方法と進度予定：
【重要】 新型コロナウイルス感染症対策のために授業形態の修正・変更等がありうるので、教務係からの連絡に常に注意しておくこと。
 1. 導入
 2. 原書講読と考察(1)
 3. 原書講読と考察(2)
 4. 原書講読と考察(3)
 5. 原書講読と考察(4)
 6. 原書講読と考察(5)
 7. 原書講読と考察(6)
 8. 原書講読と考察(7)
 9. 原書講読と考察(8)
 10. 原書講読と考察(9)
 11. 原書講読と考察(10)
 12. 原書講読と考察(11)
 13. 原書講読と考察(12)
 14. 原書講読と考察(13)
 15. まとめ
8. 成績評価方法：
各回の講読の準備と議論への参加（100%）
9. 教科書および参考書：
必要に応じて授業中に指示する。
10. 授業時間外学習：原書講読中心の授業であるので、事前に読解の予習を行い、内容上の論点について考察・調査しておくことが求められる。
 11. 実務・実践的授業/Practicalbusiness
※○は、実務・実践的授業であることを示す。/Note:"○"Indicatesthe practicalbusiness
《実務・実践的授業/Practicalbusiness》
 12. その他：なし
個人面談は随時受け付ける。ただし、あらかじめ以下のアドレス宛てにメールしてアポを取る。新型コロナウイルス感染症への対応状況によって、面談は遠隔となる場合がある。なお、受講希望者は、必ず事前にメールで相談すること。
xkc-m2rt@tohoku.ac.jp (森本浩一)

科目名：ドイツ文学特論Ⅰ／ German Literature (Advanced Lecture) Ⅰ

曜日・講時：前期 金曜日 2 講時

Semester：1 学期 単位数：2

担当教員：嶋崎 啓

コード：LM15205 科目ナンバリング：LGH-LIT630J 使用言語：日本語

【平成 30 年度以前入学者読替先科目名：ドイツ文学特論Ⅰ】

1. 授業題目：中世ドイツ文学

2. Course Title (授業題目)：Medieval German literature

3. 授業の目的と概要：現代文学の源流としての中世ドイツ文学の歴史を知るとともにその特殊性を理解する。

現代文学において恋愛がテーマになるのは珍しいことではないが、ドイツ文学史において恋愛が主題になったのは 12 世紀であった。それ以前のドイツ文学の主題はキリスト教であった。ただし、12 世紀に恋愛が主題とされた場合に雛形となったのはキリスト教の神への信仰であったので、その恋愛は崇高な愛の形をとった。しかしそのような高貴な愛も騎士文化の衰退と市民社会の興隆とともに通俗化する。授業では、恋愛のほかに北欧伝説との関係も見ながら、中世ドイツ文学の流れを社会の変動も踏まえながら考察したい。

4. Course Objectives and Course Synopsis(授業の目的と概要)：In diesem Seminar handelt es sich um die Geschichte der deutschen mittelalterlichen Literatur als Quelle der modernen Literatur und um ihre Eigenschaften.

In der modernen Literatur ist nicht selten die Liebe das Thema, aber die Liebe wurde erst im 12. Jahrhundert thematisiert, das Thema davor war am meisten das Christentum. Die literarische Liebe basierte sich aber auch auf dem Glauben an den Gott, die Liebe zwischen Menschen war also erhaben. Solche hohe Liebe wurde aber allmählich säkularisiert, indem die ritterliche Kultur verfiel und die bürgerliche Gesellschaft sich erhebe. In dem Seminar soll also auch berücksichtigt werden, dass die Teilnehmer sich mit der Kultur und Gesellschaft im Mittelalter vertraut machen und gelegentlich auch bessere Kenntnisse über den Zusammenhang mit der nordischen Legenden erwerben können.

5. 学習の到達目標：中世ドイツ文学の歴史を知り、その特殊性を理解する。中高ドイツ語の文学作品を読んでその内容が理解できる。

6. Learning Goals(学修の到達目標)：Ziel des Unterrichts ist, dass man die Geschichte der deutschen mittelalterlichen Literatur und deren Eigenschaften kennen lernt und Texte im Mittelhochdeutsch lesen und den Inhalt verstehen kann.

7. 授業の内容・方法と進度予定：

1 ガイダンス

2 中高ドイツ語入門 1 (発音)

3 中高ドイツ語入門 2 (名詞・代名詞・形容詞)

4 中高ドイツ語入門 3 (動詞)

5 中高ドイツ語文学講読 1 (1473-1474)

6 中高ドイツ語文学講読 2 (1475-1476)

7 中高ドイツ語文学講読 3 (1477-1479)

8 中高ドイツ語文学講読 4 (1480-1482)

9 中高ドイツ語文学講読 5 (1483-1485)

10 中高ドイツ語文学講読 6 (1486-1488)

11 中高ドイツ語文学講読 7 (1489-1491)

12 中高ドイツ語文学講読 8 (1492-1494)

13 中高ドイツ語文学講読 9 (1495-1497)

14 中高ドイツ語文学講読 10 (1498-1501)

15 中高ドイツ語文学講読 11 (1502-1504)

8. 成績評価方法：

平常点(出席、授業での発言、質疑) [100%]

9. 教科書および参考書：

プリントを配布する。参考書：『中高ドイツ語小辞典』同学社；古賀充洋『中高ドイツ語』大学書林；岡崎忠弘訳『ニーベルンゲンの歌』

10. 授業時間外学習：前もって文法的説明を加えた注を配布するので、それに基づき、辞書を使って予習をすること。

11. 実務・実践的授業/Practicalbusiness

※○は、実務・実践的授業であることを示す。/Note: "○"Indicates the practicalbusiness

《実務・実践的授業/Practicalbusiness》

12. その他：なし

授業の形態(対面かオンラインか)は Classroom で指示する予定。

科目名：ドイツ文学特論Ⅱ／ German Literature (Advanced Lecture) II

曜日・講時：後期 木曜日 4 講時

セメスター：2 学期 単位数：2

担当教員：佐藤 研一

コード：LM24402 科目ナンバリング：LGH-LIT631J 使用言語：日本語

【平成 30 年度以前入学者読替先科目名：ドイツ文学特論Ⅱ】

1. 授業題目：十八世紀ドイツ戯曲の誕生——レッシング作『フィロータス』
2. Course Title (授業題目)：Das deutsche Drama des 18. Jahrhunderts. Gotthold Ephraim Lessing: Philotas
3. 授業の目的と概要：「啓蒙の世紀」とは、たえず近代と近世が衝突しつづけ、漸次的に地殻変動を起こす過程である。近代社会が、突如、フランス革命後に誕生したわけではない。この点を踏まえ、レッシングの喜劇『ミンナ・フォン・バルンヘルム』(1767) 同様、七年戦争の影響下で執筆された一幕もの悲劇『フィロータス』(1759)を精読して、いかに近代の文学が創出されてゆくのかを見極める。
十八世紀ドイツ戯曲は、『ミンナ・フォン・バルンヘルム』や『エミーリア・ガロッチィ』(1772)を以て、擬古典主義の藪が大きく払われ、新しい文学への道が切り開かれた。ついで、ゲーテの『ゲッツ・フォン・ベルリヒンゲン』(1773)、J.M.R. レンツの喜劇『家庭教師』(1774)や喜劇『軍人たち』(1776)等が、旧文学に抗して噴流のごとく奔騰する絵巻を繰り広げてゆく。ドイツの市井風俗百態を、その体内に巢食う矛盾とともに活写する戯曲の誕生である。この点を具体的に念頭に置いて、『フィロータス』の台詞一言一句を味わいながら、語学上・文学上の問題点について議論を交わし、演習形式で読み進める。
4. Course Objectives and Course Synopsis(授業の目的と概要)：Im Zusammenhang mit der „Aufklärung“, wo die Moderne langsam entstanden ist, lesen wir das Trauerspiel „Philotas“ (1759) von Lessing unter diesem Aspekt gründlich durch.
5. 学習の到達目標：文学作品には、それを生み落とす時代や諸々の文学的伝統が重層的に刻印されている。しかし作品の独自性は、その枠組みを越えて生まれ出てくるものである。近代ドイツ戯曲の誕生を告げるレッシング(1729-81)の原典を読みながら、かかる文学の創造性を味わう眼力を培う。
6. Learning Goals(学修の到達目標)：Wir versuchen die Originalität vom Trauerspiel „Philotas“ aufzuzeigen, das nicht nur vom Siebenjährigen Krieg, sondern auch von verschiedenen literarischen Traditionen nachhaltig beeinflusst ist.
7. 授業の内容・方法と進度予定：
もとより演習は、講義とは異なり、学生諸君との不断のやりとりを通して、内実を具え、展開してゆくものである。したがって、学生諸君の読解力や議論の方向をみすえながら、授業を進めてゆくことになるが、あえて二回以降の進度を記せば、以下の通り。
第1回：オリエンテーション
第2回：Philotas. Dritter Auftritt
第3回：Philotas. Vierter Auftritt
第4回：Philotas. Vierter Auftritt
第5回：Philotas. Fünfter Auftritt
第6回：Philotas. Fünfter Auftritt
第7回：Philotas. Fünfter Auftritt
第8回：Philotas. Fünfter Auftritt
第9回：Philotas. Fünfter Auftritt
第10回：Philotas. Fünfter Auftritt
第11回：Philotas. Sechster Auftritt
第12回：Philotas. Siebenter Auftritt
第13回：Philotas. Siebenter Auftritt
第14回：Philotas. Achter Auftritt
第15回：Philotas. Achter Auftritt
8. 成績評価方法：レポート [30%]・出席 [70%]。とくに授業における議論に基いて評価する。
9. 教科書および参考書：
テキスト (Lessing, Gotthold Ephraim: Philotas. In Ders.: Werke und Briefe, Bd. 4. Hrsg. von G. E. Grimm. Frankfurt: Deutscher Klassiker, 1997, S. 9-35.) はプリントで配布する。参考文献は以下の通り。Goethe, Johann Wolfgang: Götz von Berlichingen mit der eisernen Hand. Stuttgart: Reclam, 2004./Lenz, Jakob Michael Reinhold: Der Hofmeister oder Vorteile der Privaterziehung. Stuttgart: Reclam, 2001./Lenz, Jakob Michael Reinhold: Die Soldaten. Stuttgart: Reclam, 2004./
柴田翔『内面世界に映る歴史 ゲーテ時代ドイツ文学史論』筑摩書房、1986年。/坂井栄八郎『ゲーテとその時代』朝日選書、1996年。
10. 授業時間外学習：ギリシャ悲劇、ローマ喜劇、シェイクスピア、カルデロン、コルネイユ、ラシーヌ、ビューヒナー等、西洋の戯曲を貪欲に読むことを望む。
11. 実務・実践的授業/Practicalbusiness
※○は、実務・実践的授業であることを示す。/Note:“○”Indicatesthe practicalbusiness
《実務・実践的授業/Practicalbusiness》
12. その他：なし

科目名：ドイツ文化学特論 I / German Culture (Advanced Lecture) I

曜日・講時：前期 火曜日 2 講時

Semester：1 学期 単位数：2

担当教員：佐藤 雪野

コード：LM12205 科目ナンバリング：LGH-LIT632J 使用言語：日本語

【平成 30 年度以前入学者読替先科目名：ドイツ文化学特論 I】

1. 授業題目：ドイツ（語）文化圏としての中欧の文化と歴史 (3)

2. Course Title (授業題目)：Culture and History of Central Europe as a German Cultural Sphere (3)

3. 授業の目的と概要：広い意味でのドイツ（語）文化圏の歴史と文化を、様々な側面から理解する。

その際、ドイツ以外のドイツ（語）文化圏に着目する。

「ドイツ文化圏」としてのプラハに注目し、なぜそこに「ドイツ文化圏」が生じたのかを含め、プラハの多文化性を考察する。講義のほか、ドイツ語で書かれたテキストを読む機会を設け、ドイツ語の読解力も高める。

4. Course Objectives and Course Synopsis (授業の目的と概要)：This course provides students knowledge of history and culture of German speaking area, especially outside of today's Germany.

For this purpose we will discuss on multi-cultural Prague, also as a German cultural sphere.

Besides lectures we will read a German text in order to improve the students' ability of German language.

5. 学習の到達目標：1. ドイツ（語）文化圏の歴史と文化を理解する。

2. ドイツ語の読解力を向上させる。

3. わかりやすいプレゼンテーション能力を身につける。

6. Learning Goals (学修の到達目標)：1. Students will understand history and culture of German speaking area.

2. Students will develop skills to read German academic text.

3. Students will be able to present their research.

7. 授業の内容・方法と進度予定：

内容及び進度は以下の通りを予定しているが、状況によって内容を変更する場合がある。

対面授業が不可の場合は、オンラインのリアルタイム授業の予定である。

1. オリエンテーション

2. プラハの歴史

3. ボヘミアとドイツ人

4. プラハとユダヤ人

5. プラハのドイツ文学

6. 映画「この素晴らしき世界」1

7. 映画「この素晴らしき世界」2

8. Zur Geschichte und Vorgeschichte der Prager deutschen Literatur des 'expressionistischen Jahrzehnts' 1

9. Zur Geschichte und Vorgeschichte der Prager deutschen Literatur des 'expressionistischen Jahrzehnts' 2

10. Zur Geschichte und Vorgeschichte der Prager deutschen Literatur des 'expressionistischen Jahrzehnts' 3

11. Zur Geschichte und Vorgeschichte der Prager deutschen Literatur des 'expressionistischen Jahrzehnts' 4

12. Zur Geschichte und Vorgeschichte der Prager deutschen Literatur des 'expressionistischen Jahrzehnts' 5

13. Zur Geschichte und Vorgeschichte der Prager deutschen Literatur des 'expressionistischen Jahrzehnts' 6

14. Zur Geschichte und Vorgeschichte der Prager deutschen Literatur des 'expressionistischen Jahrzehnts' 7

15. まとめ

8. 成績評価方法：

平常点（出席、アサインメント、発言状況）：70%

期末課題：30%

9. 教科書および参考書：

テキストはプリント配布

その他の参考書は授業中に指示する。

Text will be provided at the class. Reference books will be introduced at the class.

10. 授業時間外学習：予習は、テキストを読み、関連事項を調べておくこと。

復習時にも、調査が必要。

Students are required to prepare for the assigned part of the designated textbook for each class.

11. 実務・実践的授業/Practicalbusiness

※○は、実務・実践的授業であることを示す。/Note: "○"Indicates the practicalbusiness

《実務・実践的授業/Practicalbusiness》

12. その他：なし

進度については一例であり、受講者の状況により、臨機応変に対応する。

テキストの入手方法や、その他の補足説明（オフィス・アワー、講師への連絡方法など）は開講時に行う。

The further information for the lecturer will be given in class.

科目名：ドイツ文化学特論Ⅱ／ German Culture (Advanced Lecture) II

曜日・講時：通年集中 その他 連講

セメスター：集中 単位数：2

担当教員：竹内 拓史

コード：LM98825 科目ナンバリング：LGH-LIT633J 使用言語：日本語

【平成30年度以前入学者読替先科目名：ドイツ文化学特論Ⅱ】

1. 授業題目：ゲオルク・ビューヒナーと近現代
2. Course Title (授業題目)：Georg Büchner und die Moderne
3. 授業の目的と概要：19世紀の作家ゲオルク・ビューヒナーとその周辺について、その作品や思想を紹介しながら、それらが近現代の作品や思想にどのように影響を与えているかと考察する。
4. Course Objectives and Course Synopsis(授業の目的と概要)：Dieser Kurs stellt einen Schriftsteller im 19. Jahrhundert Georg Büchner und sein Umfeld vor und untersucht, wie sein Werk und seine Ideen neuere literarische Werke und Gedanken beeinflusst haben.
5. 学習の到達目標：近代ヨーロッパの文学と思想の一例を確認し、近代文学とその思想が現代のそれとどのような関係にあるのかについて考察できるようになる。
6. Learning Goals(学修の到達目標)：Das Ziel dieses Kurses ist es, ein Beispiel der modernen Literatur und ihrer Ideen zu verstehen und ihre Auswirkungen auf unsere Zeit zu betrachten.
7. 授業の内容・方法と進度予定：
 1. イントロダクション
 2. ゲオルク・ビューヒナーとその作品について概観
 3. 遺稿を巡る諸問題
 4. 『ヴォイツェク』1
 5. 『ヴォイツェク』2
 6. 『レンツ』1
 7. 『レンツ』2
 8. ビューヒナーの自然科学研究
 9. ビューヒナー家の人々1－父エルンスト
 10. ビューヒナー家の人々2－妹レイーゼ
 11. ビューヒナーと現代1
 12. ビューヒナーと現代2
 13. 映像で見るビューヒナー作品1
 14. 映像で見るビューヒナー作品2
 15. まとめ
8. 成績評価方法：

授業への参加（リアクションペーパーの提出等）35%， 期末レポート 65%
9. 教科書および参考書：
 - ・『ゲオルク・ビューヒナー全集』（鳥影社）日本ゲオルク・ビューヒナー協会有志訳，2011年
 - ・『ヴォイツェク ダントンの死 レンツ』（岩波文庫）岩淵達治訳，2006年
 - ・『ゲオルク・ビューヒナー全集』（河出書房新社）手塚富雄他訳，1970年

買う必要はありませんが、上記のどれかで作品を読んでおいてもらえるとより授業内容への理解が深まると思います。ちなみに一番価格が安いのは岩波文庫ですが、「レオンスとレーナ」が入っていません。他の二つには、文学作品以外のもの（手紙やドクター論文等）の訳も入っていますが、高いです。
10. 授業時間外学習：日本語訳で構いませんので、ゲオルク・ビューヒナーの作品を読んでおいてください。主要な作品は4つしかありません。
 11. 実務・実践的授業/Practicalbusiness
 - ※○は、実務・実践的授業であることを示す。/Note: "○"Indicates the practicalbusiness
 - 《実務・実践的授業/Practicalbusiness》
 12. その他：なし

科目名：ドイツ文学研究演習 I / German Literature (Advanced Seminar) I

曜日・講時：前期 金曜日 4 講時

セメスター：1 学期 単位数：2

担当教員：嶋崎 啓

コード：LM15403 科目ナンバリング：LGH-LIT634J 使用言語：日本語

【平成 30 年度以前入学者読替先科目名：ドイツ文学研究演習 I】

1. 授業題目：近現代ドイツ短編小説講読

2. Course Title (授業題目) : Reading Modern German Short Stories

3. 授業の目的と概要：近現代のドイツ語の短編小説を原文で読み、ドイツ文学一般の特徴と個々の作家の特徴を探る。

今期は Robert Musil の Tonka を読む。Musil は世紀転換期のオーストリアで活躍した小説家であるが、きわめて理知的でありながら神秘主義的な側面を持つ。その文体は決して難解ではないが、文と文のつながりを理解するのは容易でない。特に接続詞 denn の用い方が独特で、この理由付けの論理を理解できるかどうか Musil 理解の鍵になると言っても好い。しかし、わざと分かりにくい表現をしているのではないので、丹念に文脈を追えば、必ず正しい理解に到達できるので、受講者にはあらゆる辞書を用いて、徹底的な精読をしてもらいたい。

4. Course Objectives and Course Synopsis(授業の目的と概要) : In diesem Seminar wird eine deutsche Erzählung gelesen, wobei man die Eigenschaften der deutschen Literatur im Allgemeinen bzw. eines einzelnen Autors betrachten soll.

In diesem Semester handelt es sich um "Tonka" von Robert Musil. Musil, österreichischer Schriftsteller in der Jahrhundertwende, hat sowohl einen rationalistischen als auch mystizistischen Charakter. Der Stil selbst ist zwar nicht sehr kompliziert, aber die Verbindung zwischen den Sätzen ist nicht leicht zu verstehen. Vor allem die Verwendung von der kausalen Konjunktion "denn" ist ihm eigentümlich, das Verständnis von Musil hängt davon ab, ob man seine kausale Logik verstehen kann. Er verwendet aber nicht absichtlich eine schwer zu verstehende Ausdrucksweise. Man kann durch die genaue Betrachtung des Kontexts das richtige Verständnis erreichen. Man soll also mit allen Wörterbüchern sorgfältig den Text lesen.

5. 学習の到達目標：ドイツ語で書かれた小説を読んで文脈と個々の語彙から内容を理解することができる。

作品の内容について自分なりの解釈ができる。

6. Learning Goals(学修の到達目標) : Ziel des Unterrichts ist, dass man über die Bedeutung der einzelnen Wörter und des Kontexts den Inhalt einer deutschen Erzählung genau verstehen und den Inhalt interpretieren kann.

7. 授業の内容・方法と進度予定：

1 ガイダンス

2 Tonka 講読 1, S. 270-271

3 Tonka 講読 2, S. 272-273

4 Tonka 講読 3, S. 274-276

5 Tonka 講読 4, S. 277-279

6 Tonka 講読 5, S. 280-282

7 Tonka 講読 6, S. 283-285

8 Tonka 講読 7, S. 286-288

9 Tonka 講読 8, S. 289-291

10 Tonka 講読 9, S. 292-294

11 Tonka 講読 10, S. 295-297

12 Tonka 講読 11, S. 298-300

13 Tonka 講読 12, S. 301-302

14 Tonka 講読 13, S. 303-304

15 Tonka 講読 13, S. 305-306

8. 成績評価方法：

平常点(出席、授業での発言、質疑) [100%]

9. 教科書および参考書：

プリントを配布する。

10. 授業時間外学習：小学館「独和大辞典」、相良「大独和辞典」はもとより、Grimms Wörterbuch, Adelung, インターネットの DWDS など、あらゆる手段を使って予習をすること。

11. 実務・実践的授業/Practicalbusiness

※○は、実務・実践的授業であることを示す。/Note:"○"Indicatesthe practicalbusiness

《実務・実践的授業/Practicalbusiness》

12. その他：なし

授業の形態(対面かオンラインか)は Classroom で指示する予定。

科目名：ドイツ文学研究演習Ⅱ／ German Literature (Advanced Seminar) II

曜日・講時：後期 金曜日 4 講時

セメスター：2 学期 単位数：2

担当教員：嶋崎 啓

コード：LM25403 科目ナンバリング：LGH-LIT635J 使用言語：日本語

【平成 30 年度以前入学者読替先科目名：ドイツ文学研究演習Ⅱ】

1. 授業題目：近現代ドイツ短編小説講読

2. Course Title (授業題目)：Reading Modern German Short Stories

3. 授業の目的と概要：近現代のドイツ語の短編小説を原文で読み、ドイツ文学一般の特徴と個々の作家の特徴を探る。今期は Franz Kafka の Josefine, die Sangerin oder das Volk der Mause を読む。Kafka の文体は比較的平易であるが、論理的展開がつかみにくい場合が多く、決して読みやすくはない。しかし、その論理の連関が見えたときに、汲み尽くせない含意が見える。受講者にはあらゆる辞書を用いて、徹底的な精読をしてもらいたい。

4. Course Objectives and Course Synopsis (授業の目的と概要)：In diesem Seminar wird eine deutsche Erzahlung gelesen, wobei man die Eigenschaften der deutschen Literatur im Allgemeinen bzw. eines einzelnen Autors betrachten soll. In diesem Semester handelt es sich um "Josefine, die Sangerin oder das Volk der Mause" von Franz Kafka. Der Stil von Kafka ist anscheinend nicht so schwer zu lesen, die von seinen Satzen konsturierte logische Kosequenz ist doch oft schwer zu begreifen. Aber wenn man die Konsequenz verstehen kann, dann kann man eine unerschopfliche Implikation sehen. Man soll also mit allen Worterbuchern sorgfaltig den Text lesen.

5. 学習の到達目標：ドイツ語で書かれた小説を読んで文脈と個々の語彙から内容を理解することができる。作品の内容について自分なりの解釈ができる。

6. Learning Goals (学修の到達目標)：Ziel des Unterrichts ist, dass man uber die Bedeutung der einzelnen Worter und des Kontexts den Inhalt einer deutschen Erzahlung genau verstehen und den Inhalt interpretieren kann.

7. 授業の内容・方法と進捗予定：

1 ガイダンス

2 Josefine 講読 1, S. 172

3 Josefine 講読 2, S. 173

4 Josefine 講読 3, S. 174

5 Josefine 講読 4, S. 175

6 Josefine 講読 5, S. 176

7 Josefine 講読 6, S. 177

8 Josefine 講読 7, S. 178

9 Josefine 講読 8, S. 179

10 Josefine 講読 9, S. 180

11 Josefine 講読 10, S. 181

12 Josefine 講読 11, S. 182

13 Josefine 講読 12, S. 183

14 Josefine 講読 13, S. 184

15 Josefine 講読 13, S. 185

8. 成績評価方法：

平常点(出席、授業での発言、質疑) [100%]

9. 教科書および参考書：

プリントを配布する。

10. 授業時間外学習：小学館「独和大辞典」、相良「大独和辞典」はもとより、Grimms Worterbuch, Adelung, インターネットの DWDS など、あらゆる手段を使って予習をすること。

11. 実務・実践的授業/Practicalbusiness

※○は、実務・実践的授業であることを示す。/Note:"○"Indicatesthe practicalbusiness

《実務・実践的授業/Practicalbusiness》

12. その他：なし

授業の形態(対面かオンラインか)は Classroom で指示する予定。

科目名：ドイツ語学研究演習 I / German Language (Advanced Seminar) I

曜日・講時：前期 火曜日 3 講時

セメスター：1 学期 単位数：2

担当教員：ナロック ハイコ

コード：LM12304 科目ナンバリング：LGH-LIT636E, J 使用言語：2 カ国語以上

【平成 30 年度以前入学者読替先科目名：ドイツ文化学研究演習 I】

1. 授業題目：ドイツ語学研究演習
2. Course Title (授業題目) : German Language (Advanced Seminar)
3. 授業の目的と概要：1) ドイツの雑誌（週刊誌）や近年の文学作品を読むことを通してドイツ語能力、ドイツ語圏文化の知識を身に着ける。
2) 雑誌記事または近年発表された文学作品を 3 週間当たり 1 作品（雑誌記事は 2 週間当たり 1 本）ぐらいのペースで読んでいく。
3) 適宜に発表・語りやディスカッションなど、他の言語活動も行う。
4. Course Objectives and Course Synopsis(授業の目的と概要) : 1) Improving German language skills and cultural knowledge through the reading of journal articles and literature.
2) Reading German pieces of literature in 3 weeks, and journal articles in 2 weeks.
3) Other elements of the class include narration, presentation, and discussion.
5. 学習の到達目標：語彙を増やし、各自が持っているドイツ語を読む能力を高める。
また、ドイツ語のコミュニケーション能力を高める。
6. Learning Goals(学修の到達目標) : Expand vocabulary and reading skills according to the texts read.
Expanding communicative skills through narration, presentation, and discussion.
7. 授業の内容・方法と進度予定：
 1. Lukas Bärfuss: Malinois
 2. Lukas Bärfuss: Malinois
 3. Lukas Bärfuss: Malinois
 4. Raphaela Edelbauer: Das flüssige Land
 5. Raphaela Edelbauer: Das flüssige Landl
 6. Raphaela Edelbauer: Das flüssige Land
 7. Sebastian Guhr: Die langen Arme
 8. Sebastian Guhr: Die langen Arme
 9. Sebastian Guhr: Die langen Arme
 10. Miku Sopia Kühmel: Kintsugi
 11. Miku Sopia Kühmel: Kintsugi
 12. Miku Sopia Kühmel: Kintsugi
 13. Tonio Schachinger: Nicht wie Ihr
 14. Tonio Schachinger: Nicht wie Ihr
 15. Tonio Schachinger: Nicht wie Ihr
8. 成績評価方法：
毎回の授業参加、課題、宿題に基づく。
9. 教科書および参考書：
上記の「授業内容」で掲載された書籍を教材とする
10. 授業時間外学習：授業の準備、宿題
11. 実務・実践的授業/Practical business
※○は、実務・実践的授業であることを示す。/Note: "○" Indicates the practical business
《実務・実践的授業/Practical business》
12. その他：なし
本シラバスは、対面授業が行われることを前提に作成されている。
もし遠隔で行われることになった場合、それに合わせて授業内容と方法が変わる場合がある。

科目名：ドイツ語学研究演習Ⅱ／ German Language (Advanced Seminar) II

曜日・講時：後期 火曜日 5講時

Semester：2学期 単位数：2

担当教員：ナロック ハイコ

コード：LM22505 科目ナンバリング：LGH-LIT637E, J 使用言語：2カ国語以上

【平成30年度以前入学者読替先科目名：ドイツ文化学研究演習Ⅱ】

1. 授業題目：ドイツ語学研究演習
2. Course Title (授業題目)：German Language (Advanced Seminar)
3. 授業の目的と概要：1) ドイツの雑誌(週刊誌)や近年の文学作品を読むことを通してドイツ語能力、ドイツ語圏文化の知識を身に着ける。
2) 雑誌記事または近年発表された文学作品を3週間当たり1作品ぐらいのペースで読んでいく。
3) 適宜に発表・語りやディスカッションなど、他の言語活動も行う。
4. Course Objectives and Course Synopsis(授業の目的と概要)：1) Improving German language skills and cultural knowledge through the reading of journal articles and literature.
2) Reading German pieces of literature in 3 weeks, and journal articles in 2 weeks.
3) Other elements of the class include narration, presentation, and discussion.
5. 学習の到達目標：各自が持っているドイツ語の文学作品の読む能力を高める。
各自が持っているドイツ語のコミュニケーション能力を高める。
6. Learning Goals(学修の到達目標)：Expand vocabulary and reading skills according to the texts read.
Expanding communicative skills through narration, presentation, and discussion.
7. 授業の内容・方法と進度予定：
 1. Sina Kamala Kaufmann: Helle Materie
 2. Sina Kamala Kaufmann: Helle Materie
 3. Sina Kamala Kaufmann: Helle Materie
 4. Gerhard Falkner: Schorfheide
 5. Gerhard Falkner: Schorfheide
 6. Gerhard Falkner: Schorfheide
 7. Clemens Setz: Der Trost runder Dinge
 8. Clemens Setz: Der Trost runder Dinge
 9. Clemens Setz: Der Trost runder Dinge
 10. Fatma Aydemir: Eure Heimat ist unser Albtraum
 11. Fatma Aydemir: Eure Heimat ist unser Albtraum
 12. Fatma Aydemir: Eure Heimat ist unser Albtraum
 13. Norbert Scheuer: Winterbienen
 14. Norbert Scheuer: Winterbienen
 15. Norbert Scheuer: Winterbienen
8. 成績評価方法：
毎回の授業参加、課題、宿題に基づく。
9. 教科書および参考書：
上記の「授業内容」で掲載された書籍を教材とする
10. 授業時間外学習：授業の準備、宿題
11. 実務・実践的授業/Practicalbusiness
※○は、実務・実践的授業であることを示す。/Note: "○" Indicates the practical business
《実務・実践的授業/Practicalbusiness》
12. その他：なし
本シラバスは、対面授業が行われることを前提に作成されている。
もし遠隔で行われることになった場合、それに合わせて授業内容と方法が変わる場合がある。